

会議録：「令和２年度第１回恵那市産業振興会議」

日時：令和２年１０月１９日（月曜日）１６：００～１７：００

場所：恵那市消防防災センター３階防災研修室

参加者：出席１４人、欠席１人（別紙参照）

１．開会

○事務局「第１回恵那市産業振興会議を開会します。例年ですと本会議は年度当初に開催し、恵那市産業振興の方向性等を議論いただいておりますが、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、最初の会議が本日となりました。年度当初と比べて徐々に経済活動も回復局面に入っている段階かと思いますが、社会は大きく変化しております。改めて今後どのような産業振興施策が必要かをご議論をお願いします。」

２．会長あいさつ

○森岡会長「ビジョン策定後、３年目となります。昨年度末から新型コロナウイルスというリスクが全く計算できない不確実な出来事が発生し、社会や産業、様々な面で混乱や混迷が生じています。恵那市では緊急の課題に対して、様々な施策を実施してきたようです。また産業振興のための事業も展開されているので、事業の進捗状況を確認し、今後の方向性について活発なご意見ををお願いします。」

３．市長あいさつ

○小坂市長「第１回の恵那市産業振興会議にお集まりいただきお礼申し上げます。スピードスケート冬季国体が来年１月２７日からクリスタルパーク恵那で開催されますが、本日は岐阜県庁で１００日前の除幕式がありました。国体クラスのイベントが開催されるのはクリスタルパーク恵那が初めて。コロナにより自粛・活動停止しておりましたが、やっと動き始めました。産業振興会議では産業振興ビジョンをつくっていただき、色々なご意見をいただきました。コロナや自然災害については今まで考慮していませんでした。それらを考慮して新たな視点から産業振興ビジョンをつくれば、より強靱な足腰の強い計画になると思います。活発なご意見ををお願いします。」

４．議事

○事務局「ここからの議事・進行は、当会議の会長である中部大学・森岡教授にお願いします。」

○会長「次第に沿って進めます。（１）報告事項について事務局から説明をお願いします。」

○事務局

- ・資料①「恵那市産業振興ビジョンに基づく令和２年度事業と社会変動」を説明。

○会長「ただいま事務局から説明がありましたが、ビジョンを策定した当時と現在では、新型コロナウイルスの発生で大きく社会が変化しています。不確実

な事象をどう乗り越えていくかが重要です。社会変動を考慮し、新たな観点から見直し、より強靱なビジョンにしていくべきと考えます。教育や医療、文化芸術、スポーツなどあらゆる分野でデジタル化・オンライン化が加速し、オンラインによる新ビジネスが次々登場すると予想されています。産業では、リモート化、オンライン化、テレワークが推進され、製造業でも IT 先端技術による業務の効率化が進んでいくとされています。デジタル技術の浸透が生活や産業をより良いものにしていくと言われています。DX（デジタルトランスフォーメーション）という考え方が広がっています。DX をどう進めていくかが重要。また、新しいライフスタイルに伴う需要の変化に合わせ、大量生産大量消費からの脱却や CO2 排出を抑制した社会システムの構築など持続可能社会の実現への関心も高まっています。それらを加味しながらより強い産業振興ビジョンとするためにご議論ください。

令和 2 年度事業の取り組み状況についてはご意見ありませんか。

ないようですので、議事（2）に移ります。これまでの取り組みに対する意見を含めて、今後どのように取り組んでいくべきか、分野ごとに事務局から説明いただき、委員の皆様からご意見を伺います。

まず、商業・観光分野からお願いします。」

○事務局「資料②の 2 ページにビジョン体系が掲載してあります。社会変動を考慮し、内容を拡充すべき基本施策については【拡充】と表記してあります。これまでどおりビジョンに基づく事業を継続的に実施しながら、新たに実施していくものを拡充する方向性として 3 ページ以降にまとめてあります。」

・資料②「商業・観光分野」の方向性案を説明。

○会長「ただいまの説明についてご意見をお願いします。」

○委員「3 月のロックダウン状態から徐々に緩和されて約半年、商店街でも飲食店を中心に大変苦しい状況が続きましたが、市の『カットくチケット』『プレミアム付商品券』など経済対策事業により助かりました。これらの政策がなかったらどうなっていたか心配だった。現状はお店も安心して商売ができる。これからはデジタル化が必要。コロナ禍でも通販会社はほとんど影響なく売上を維持またはアップしており、小売店と大規模店の競争という問題を飛び越えてしまった。高齢者も通販やスマートフォン支払いが増えてきました。ネットや通販で消費してしまう傾向が強くなっている。今週、『Go To 商店街』の説明会がありますが、行政情報や防災情報、教育情報なども発信し、消費へつながるアプリを作るといい。今はそれぞれが別々に届くのでまとめたアプリがあれば市民もダウンロードしてくれる。移住してきた人がアプリの開発を進めており、次回のまちなか市で PR したいと言っている。そのような人たちと協力しながらデジタル化にも挑戦して行きたい。ビジョンの中にそのような取り組みに対する支援があるといい。」

○委員「恵南地域でもコロナにより相当なダメージを受けています。『プレミアム付商品券』など大変助かったという声を聞いていますが、コロナによる新しい生活様式に対応した経営環境を整備する必要が出てきたと考えています。ネットで何でも購入できるようになり、マーケットが完

全に変わりました。キャッシュレス社会は避けて通れない現実に直面しています。環境整備に対し支援いただくと同時に、先日 5G の基地局が中津川市と多治見市に出来ると聞いた。ネット環境が重要視される中でインフラ整備も進めてほしい。新聞報道にもありましたが、大手通信会社がへき地には基地局を作るという話です。恵那市も力をかけて新しい経営スタイルが進むようにしていただきたい。」

○副会長「資料①②にビジョンの体系が掲載されていますが、市民により理解していただくためには、漠然とした言葉で表現してほしくない。具体的な内容で掲載して理解してもらい、事業に参加してもらえるようにすべき。また『基本施策を拡充する方向性案』として 4 分野の内容がまとめてありますが、それぞれは双方向的に結びついている。例えば、林業分野で『森林生活を楽しむ』ということであれば、観光にも結び付く。4 分野を結び付けて進めていく必要がある。」

○会長「地域情報プラットフォームが必要だと考えています。ワンストップサービスのようにバラバラの情報をまとめて発信する。地域商社（ジバスクラム恵那）がその役割を担っていくことが期待されている。今は外よりも内へ向けて事業を実施しているイメージ。また、ビジョンのどの部分とどの部分を太くして他の部分を太くしていくか。相乗効果を高めていくために有機的なつながりを考えてビジョンを進めていくことが重要だというご意見でした。次に工業分野に移ります。」

○事務局

・資料②3 ページ下段を説明。

○会長「ただいまの説明についてご意見をお願いします。」

○会長「現在は時間と場所に捕らわれない働き方が浸透してきている。できる分野はオンラインワークでやっていくというように雇用形態も変わっている。そのような点も考慮して検討いただきたい。ある企業は本社を全部地方に移したなどのニュースもありましたが、商業では新たなビジネスチャンスが生まれて来るし、雇用形態も変わっているので、それらも考慮してビジョンを進めていただきたい。」

○副会長「企業規模により出来ること出来ないことがある。セキュリティが厳しく、外部へ持って行くことが出来ないこともある。特にお客様の情報が盗まれないようにすることが非常に重要。」

○会長「持ち出せる情報と持ち出せない情報の見切りを付けた上で施策を展開することが重要。続いて農業分野に移ります。」

○事務局

・資料②4 ページを説明。

○会長「ただいまの説明についてご意見をお願いします。」

○委員「スマート農業など一般的に省力化へ進んでいますが、若手の中では

3S システムの導入によるトマトの高収量化を目指した取り組みもあり、そういった取り組みにも注目し、中山間地域では面積拡大が出来ないわけではないですが、トマトについては効率化が期待できるので若手への支援も考えていただきたい。ジバスクラム恵那との連携では、出来るだけ市内流通を多くしていただくことで、より理解していただける消費者が増えると考えます。高齢化が進んでいる状況はどの地域も同じですが、法人化が出来ると事業として継続していくことが可能になるので、そういった視点での新たな担い手をつくることを続けていけば、地域として農業が衰退しない。」

○委員「耕作放棄地が増えて困っているということを聞きます。営農組織をつくって対応していくのですが、リタイヤ世代が中心となって立ち上げているので 10 年先は非常に厳しいため、それを解決するための方法を考えていただきたい。圃場整備されたことがない土地が耕作放棄地になっているケースも多いので、出来るだけ早く整備を進めていただきたい。トマトの生産工場ができるという話を聞きましたが、小さな農家では生産量が限られ、利益が上がらないので生産工場で雇用を生み、生産量とブランド力を強化していくことも重要。」

○委員「担い手と働き手の確保が課題。農業もデジタル化が始まっているし、さらにデータを蓄積していく必要があると実感しています。」

○会長「商工業は事業承継が最も重要な課題。農業は継承者が課題。どこから連れてくるわけにはいかないが、内部から育てる可能性はある。中高生に入ってもらったり、農業体験プランを考えたりするのも一つの方法。一つのことが全部つながっていく。例えば、中高生が農業体験して、それを発信して売っていけば新しいビジネスが生まれるかもしれない。生産・流通・販売まで関わるプランも検討できれば、より有機的な生産体系が構築できるのでは。また、売上＝価格×数量。コロナで数が制限されているのであれば、価格を上げなければいけない。付加価値をいかに上げて行くかがどの分野でも重要。プレミアム付商品券事業などで今まで来ていなかった市民が購入している印象がするので、有機的なつながりが重要だと感じます。最後に林業分野に移ります。」

○事務局

・資料②4 ページを説明。

○会長「ただいまの説明についてご意見をお願いします。」

○委員「先日、東濃ヒノキ振興会で東濃 5 市の首長のところへ木材を使ってくれるよう要望に行きました。使う量より育つ量の方が多いと新聞等でも書かれています。使ってもらわないと木の価値も上がらない。そのためには安全に作業できる環境が必要ですし、担い手も必要。安全を最も重要視して取り組んでいます。15 年ほど前は 6 億円くらいの売上があり、1000 万円ほどの労働保険を払っていました。当時は年間数十件の事故がありました。今年は擦り傷が数件あった程度で大きな事故に至っていません。保険料も 30 万～50 万程度に下がっている。防護服等の購入補助はありがたく、職員の待遇も上がる。高性能機械は新しい方が性能

も良く、2/3 はレンタルしていますが、レンタル料も高いので少しでも補助してもらえるとありがたい。安全な作業をするには担い手の数も必要ですが、育成には 2～3 年必要。研修費用の支援をしてもらえるとありがたい。」

○委員「すべての分野について議論が終わりました。個別のプランはよくできているので分野をまたがるプランを考え、全体を強くするため、有機的な展開を検討することが今後の課題と感じました。本日いただいた意見は部会等で議論いただき、恵那市の産業がさらに活性化する事業が生まれてくることを期待します。以上で全ての議事が終了したので、事務局へ返します。」

6. 今後のスケジュール

○事務局「本日いただいた意見を基に部会等で検討し、来年度すぐに実施すべきものは予算化し、進めていきたいと考えています。年内に第 2 回会議を開催し、具体的な事業を提案し、ご意見をいただきたいと思いますので、引き続き理解と協力をお願いします。」

7. 閉会

○事務局「今回の会議はこれで閉会します。」